

当施設での 今後の作業活動について

発表者：樂いちデイサービス
内山 豪

共演者(生活相談員)：木村 佳代
畑山 恵理子

現在の作業活動

「アンダリア」

特徴

- 女性に人気
- 主に手指のみの動作
- 個人作業



片麻痺の方もできるように工夫している



完成するとこのような形になり自宅などで使用している



目的や対象者が限定

現在の問題点

- 手指動作のみの作業活動
- 対象者が限定されてしまう
- 複数名で行う作業活動がない
- 時間を持て余す方や認知症利用者へのアプローチが足りない
- 娯楽目的の活動が少なくリハビリマシン同等の作業活動が充実していない



「つまらない」になり兼ねない

目指す施設像

身体的リハビリが充実している

+

精神面で楽しむ作業活動

↓

一日過ごして楽しかったと思っただけの施設

作業教室の提案

年齢や性別を問わず実施できる作業活動を考えると・・・

- ・陶芸
- ・生け花
- ・手工芸
- ・園芸
- ・書道
- ・茶道
- ・農作業
- ・ゲーム

etc...

「楽しみ」を目的とする

- 利用者同士の交流、集団生活の広がり
- 精神不安定傾向—生きがいややりがいの獲得
- 共同作業—協調性向上や役割の発見

閉じ込めりやうつ病の高齢者

<閉じこもり>

閉じこもりの定義として、健康に問題がない状態の高齢者が週1回しか外出しないこととして、2413名において全体の13～22%が閉じこもり状態にあるという厚生省の調査データがある。週1回の外出内容は通院が最多であった。厚生省は、閉じこもりは寝たきりや認知症につながる問題に懸念の声を上げている。

<うつ病>

高齢者のうつ病患者は増加傾向にある。厚生労働省の調査によると、2005年に92万人いるうつ病・躁うつ病患者のうち、60代以上は約35万人。核家族化が進んだうえ、地域社会で人のつながりが希薄になり、高齢者が孤立しがちな状況にあることが一因とされる。

「作業」を目的とする

- 手指だけでなく脳活性化
- 認知症者への回想法
- 利用者による指導的立場
- 作品展示により形を残す



介護予防の観点からも期待

具体例（園芸について）

- 園芸療法という言葉が浸透
- 植物を育てることにより植物の成長過程で得る喜びや達成感
- 観察の楽しみ
- 畑仕事の経験者が感じる懐かしい土の感触

具体例（書道について）

- ・書道は全脳を使用

- 左半球は「言語機能」

- 右半球は「視覚情報の全体的把握」

- ・芸術活動は主に右脳を優位に使用するが、書道は「言語を用いる芸術」である為、左脳も同時に活性化を図る。

今後の課題と方向性

アンケート(ニーズ把握)



シュミレーション



作業



作品展示



モニタリング

